

松戸市人口ビジョン（骨子案）

I 松戸市の人口の現状分析

ア 人口動向と将来人口の分析・推計

(1) 松戸市全体の人口の状況

- ◆松戸市の総人口は市制施行した昭和18年は4万人であったが、昭和35年以降54年までは、毎年1万人以上の増加がみられ、中でも昭和44・45年の両年は2万人台の増加。55年以降は微増傾向で推移し、平成元(1989)年に45万人を超え、その後も微増。
- ◆2010年484,457人が2040年で414,287人となり約7万人、14.5%の減少、生産年齢人口は32.5%減少(※社人研2013年3月推計)
- ◆年齢構成の特徴として、20歳未満が少ない、30歳代後半～40歳代・65歳以上が多い。
- ◆昼間人口比率 81.6%

(2) 出生・死亡、転入・転出の推移

- ◆松戸市の合計特殊出生率は、平成25年1.36(平成24年 1.30)
- ◆出生数は、平成26年で3,823人。
- ◆10歳代後半から24歳までの若年層は転入超過だが、25歳から44歳のファミリー層が市外に転出する傾向がある。

(3) 高齢化の状況

- ◆高齢化率は、2010年21.4%→2040年には39.0%(※社人研2013年3月推計)

イ 人口の変化が地域の将来に与える影響分析・考察

II 人口の将来展望

ア 将来展望に必要な調査・分析

人口の将来展望のための出生や移動に関する仮定を設定。

イ 目指すべき将来の方向

松戸の持つ魅力、潜在能力をフル活用し、良好な居住環境の整備、経済の活性化により、人口規模を維持していきます。

- ・東京近郊でありながら、地方と同水準の出生率
- ・健康寿命を伸ばし、高齢者も安心して暮らせる街に

ウ 松戸市の人口の将来展望

- ・0～14歳 25～49歳の転出を抑制、転入を促進
- ・合計特殊出生率：2020年 1.6 2030年 1.8 2040年 2.07を達成
- ・総人口：2060年に50万人程度を維持
- ・昼間人口比率 85%を目指す

松戸市総合戦略（骨子案）

基本目標 I

子育て・教育・文化を軸とした都市ブランドづくり

若い世代の結婚、出産、子育ての希望を実現させるとともに、子育て世代にも魅力あるまちづくりを進め、「東京に隣接した子育てしやすいまち」として選ばれるまちづくりを進める。

1 誰もが輝き、安心して結婚、出産、子育てができるまち

- 出合いの機会があり、結婚に夢を持てる
- 若者や女性が活躍できる
- 子育てに夢を持ち、出産に必要な相談や医療環境が整っている
- 乳幼児に必要な医療環境や予防環境が整っている
- 子育てや教育に必要なコストを低減する
- 子育てについていつでも相談できる場がある

- 近所に子育てをサポートしてくれる人がいる
- 子育てと仕事を両立することができる
- 子どもと(が)遊び過ごせる公園や屋内施設が整っている
- 多世代がゆとりある住環境で子育てができる

2 主体的、創造的に子どもが育つまち

- 確かな学力が身に付けられる
- 子どもの個性に応じて教育が受けられる
- 子どもが主体的に活動できる場所がある
- 市立高校ならではの教育が受けられる
- 地域と協働する魅力的な大学がある
- 子どもたちがグローバルな視点をもつ機会がある

3 暮らしている人たちが訪れる人たちが日常的に歴史・文化を感じられるまち

- 文化・芸術の活動をできる場や発表機会、鑑賞機会が多くある
- まつどの歴史を感じられる場と学習機会がある
- 国内・海外からも魅力ある文化・芸術活動がある
- 歴史とおもてなしに支えられた松戸文化が世界に発信される
- 気軽にスポーツを楽しむ文化がある

少子高齢化に対応する特色ある自立した都市～多世代がともにいきいきと暮らせるまち～

多極型ネットワーク

地域包括ケア

ライフステージの変化に応じた住環境

創造的な働き方改革

基本目標 II

高齢者がいつまでも元気なまちづくり

高齢になっても生きがいのある暮らしや健康を維持することができ、介護や医療が必要になっても医療機関や多世代など地域で支え合えることで、高齢者がいつまでも安心して暮らせるまちづくりを進める。

1 高齢になっても健康でいられるまち

- 高齢になっても社会活動や仕事ができる
- 毎日の食事や運動を楽しみ、自分の健康状態に関心をもてる
- 年齢を重ねても移動がしやすい環境にある
- 年齢を重ねても出来るだけ自立した生活を送れる

2 介護や医療が必要になっても安心していられるまち

- 災害時の対応や防犯への備えが整っている
- 多世代の家族や地域の支え合いにより地域に暮らす高齢者が見守られている
- 安心して介護を任せられる施設や人材が充実している
- 年金や貯蓄が少なくなっても介護が受けられる
- 高度な医療を受けられる医療機関が充実している

基本目標 III

まちが再生し、賑わいのあるまちづくり

多様な都市機能が集積する快適で活力ある中心拠点としての強化や、交通利便性を向上させるなどの施策を実施することで、元気なまちづくりを進める。

1 賑わいのあるまち

- 松戸駅周辺まちづくり基本構想が実現し、中心拠点が強化される
- 鉄道交差駅を中心に、まちに躍動感が感じられる
- 新たな街路が計画的に整備される
- どこに暮らしていても、街までの移動に困らない
- 公共施設が賑わっている
- ライフスタイルやライフステージにあった魅力的な住まいがつけやすい

基本目標 IV

経済が活性化し、安心して働けるようになるまちづくり

本市の魅力である交通の利便性(東京に隣接)を活かした産業を創出することで雇用を確保し、若者や女性が活躍できるようにするとともに、企業の稼ぐ力を支援することで、まちの賑わいを取り戻す。

1 自分らしく働き、家庭ももてるまち

- 都内などへの通勤が便利である
- 誰もが働くことに喜びを見出し、安定して就労できる
- 女性も男性もワークライフバランスがとれた働き方ができる(経営者の理解)
- クリエイティブに「働く」ことができるスキルやマインドが身に付けられる
- 多世代の支え合いにより女性が活躍できる

2 稼ぐ力をもてるまち

- 商品やサービスのブランド化やPRをサポートしてもらえる
- 起業や経営について相談やサポートしてもらえる
- 商店街に魅力的な商店が集まっている
- 企業がまつどに立地するメリットがある
- クリエイターやアーティストが活躍できるまち